

展覧会

生誕 100 年

ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美

Jean-Pierre Melville, cinéaste du noir

レジスタンス、犯罪、友情、そして裏切り——

“闇”のフランスを描いた映画作家



ジャン＝ピエール・メルヴィル 『リスボン特急』の頃 ©1972 STUDIOCANAL

2017年9月26日（火）—12月10日（日）  
東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室（7階）

主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、ノクテルヌ・プロデュクシオン

協力：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、KADOKAWA、マーメイド・フィルム、  
PFF（ぴあフィルムフェスティバル）

協賛：エルメスジャパン株式会社



【本件に関するお問合せ】東京国立近代美術館フィルムセンター 広報担当 白鳥

TEL: 03-3561-0823 FAX: 03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6

## 本展のみどころ

■フランス映画界でも孤高の位置を占め、今年生誕 100 年を迎える映画作家ジャン＝ピエール・メルヴィルの生涯と業績が一望できます。『サムライ』『影の軍隊』『仁義』などの代表作は、公開当時、日本の観客にも熱く迎えられました。

■世界最強のメルヴィル専門家にして映画監督(記録映画『コードネームはメルヴィル』[2008 年]ほか)のオリヴィエ・ボレル氏が長年収集してきた資料を中心に、世界各国公開版のポスターやプレス資料、撮影現場のスナップ写真、美術セットのデザイン画など、様々な資料を 200 点以上展示します。

■初の長篇『海の沈黙』(1949 年)から最終作『リスボン特急』(1972 年)まで、メルヴィルの仕事の変遷を作品ごとにたどることができます。特に、メルヴィル作品に繰り返し出演したジャン＝ポール・ベルモンドとアラン・ドロンのファンは決して見逃せない企画です。

■会期中にはゲストを招いてトークイベントを開催するほか、本展と並行して PFF(ぴあフィルムフェスティバル)、アンスティチュ・フランセ東京、角川シネマ新宿でメルヴィル作品の上映が行われます。

## アラン・ドロンを“サムライ”にした男

監督ジャン＝ピエール・メルヴィル、その名はフランス映画の歴史の中でも特別な輝きを放っています。少年期からアメリカ映画に傾倒、助監督修業を経ずにまったくの自主製作で長篇デビュー作『海の沈黙』(1949 年)を送り出したメルヴィルは、ジャン・コクトーの依頼による『恐るべき子供たち』の映画化(1950 年)などで頭角を現し、そのインディペンデント魂は若きヌーヴェルヴァーグの監督たちから敬愛されました。



『海の沈黙』(1949 年)撮影中のスナップ ©Gaumont



『いぬ』(1962 年)撮影中のメルヴィル(右)とセルジュ・レジアニ ©Interpress

やがて優れた暗黒映画の作り手として認められ、『いぬ』(1962 年)、『ギャング』(1966 年)、『サムライ』(1967 年)、『仁義』(1970 年)といった硬質の犯罪映画、そして対独レジスタンス経験に根差した戦争大作『影の軍隊』(1969 年)などはフランス映画に一時代を築きます。とりわけジャン＝ポール・ベルモンド、アラン・ドロンという二大スターは、メルヴィル作品とともに新境地を開いたといっても過言ではありません。善悪を合わせ持った複雑な人間像を描き出し、男たちの絆と裏切りをドラマに塗り込めたメルヴィルは、日本を含む現代のアジア映画にも強い影響を与えています。

メルヴィルが生誕 100 年を迎えるこの 2017 年、フィルムセンターは、ドキュメンタリー『コードネームはメルヴィル』(2008 年)の監督オリヴィエ・ボレル氏が長年収集してきた資料を中心にその孤高の生涯と業績を振り返ります。PFF や角川シネマ新宿での代表作の上映、アンスティチュ・フランセ東京での上映やイベントと併せ、メルヴィルの“黒”の世界に触れてみてください。



## 展覧会の構成

### 1. 展覧会によせて

### 2. 経歴、そして『海の沈黙』と『恐るべき子供たち』

a メルヴィルになるまで / b 『海の沈黙』 / c 『恐るべき子供たち』

### 3. 「ハーフトーン」の3作品

a 『この手紙を読むときは』 / b 『賭博師ボブ』 / c 『マンハッタンの二人の男』

### 4. ベルモンド三部作

a 『モラン神父』 / b 『いぬ』 / c 『フェルショー家の長男』

### 5. 『ギャング』

### 6. 『サムライ』

### 7. 『影の軍隊』

### 8. 『仁義』と『リスボン特急』

a 『仁義』 / b 『リスボン特急』 / c メルヴィルの遺したもの

### 9. メルヴィルと日本



## トークイベント

\* 詳細は後日ホームページなどでお知らせいたします。

■9月30日(土) ノワール映画の系譜—フランスから香港へ

講師：野崎欽氏(東京大学文学部教授)

■11月4日(土) メルヴィル再発見—生誕100年を迎えて

講師：オリヴィエ・ボレル氏(本展企画者、記録映画『コードネームはメルヴィル』監督)

■12月2日(土) メルヴィル映画の思い出とその影響

講師：小林政広氏(映画監督)

## 関連企画

\* 詳細は後日上映プログラム、ホームページなどでお知らせいたします。

上映

第39回 PFF (ぴあフィルムフェスティバル) 何度でも!メルヴィル

会期: 9月16日(土)~9月29日(金) 『ギャング』ほか5作品を上映

会場: 東京国立近代美術館フィルムセンター \* 詳細は第39回 PFF 公式サイトをご参照ください。

上映・シンポジウム

ジャン=ピエール・メルヴィル生誕百年 関連上映・シンポジウム

会期: 11月4日(土)~11月5日(日)

会場: アンスティチュ・フランセ東京(飯田橋)

主催: アンスティチュ・フランセ日本

上映

ジャン=ピエール・メルヴィル特集

会期: 11月11日(土)~11月17日(金) 『いぬ』『影の軍隊』『仁義』ほか代表作を上映

会場: 角川シネマ新宿

提供: アンスティチュ・フランセ日本、マーメイドフィルム

配給: コピアポア・フィルム

## ■開催概要

展覧会名	生誕 100 年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美 Jean-Pierre Melville, cinéaste du noir
	主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、ノクテュルヌ・プロデュクション 協力：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、KADOKAWA、マーメイド・フィルム、 PFF（ぴあフィルムフェスティバル） 協賛：エルメスジャパン株式会社
会期	2017年9月26日（火）－12月10日（日）※月曜日は休室です
開室時間	午前11時－午後6時30分（入室は午後6時まで）
会場	東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目下車、出口7より徒歩5分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分
料金	一般 250 円（200 円）／大学生・シニア 130 円（60 円）／高校生以下及び 18 歳未満、障害者（付 添者は原則 1 名まで）、MOMAT パスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料 * 料金は常設の「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」の入場料を含みます。 *（ ）内は 20 名以上の団体料金です。 * 学生、シニア（65 歳以上）、障害者、キャンパスメンバーズの方はそれぞれ入室の際、証明できるものをご提示 ください。 * フィルムセンターの上映企画をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。 * 2017 年 11 月 3 日（金・祝）は、「文化の日」のため展示を無料でご覧いただけます。
お問合せ	03-5777-8600（ハローダイヤル）
HP	<a href="http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/melville/">http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/melville/</a>
トークイベント	■9月30日（土） ノワール映画の系譜—フランスから香港へ ■11月4日（土） メルヴィル再発見—生誕100年を迎えて ■12月2日（土） メルヴィル映画の思い出とその影響
関連企画	<b>上映</b> 第39回PFF（ぴあフィルムフェスティバル） 何度でも！メルヴィル 会期：9月16日（土）～9月29日（金） 『ギャング』ほか5作品を上映 会場：東京国立近代美術館フィルムセンター  <b>上映・シンポジウム</b> ジャン＝ピエール・メルヴィル生誕百年 関連上映・シンポジウム 会期：11月4日（土）～11月5日（日） 会場：アンスティチュ・フランセ東京（飯田橋） 主催：アンスティチュ・フランセ日本  <b>上映</b> ジャン＝ピエール・メルヴィル特集 会期：11月11日（土）～11月17日（金） 『いぬ』『影の軍隊』『仁義』ほか代表作を上映 会場：角川シネマ新宿 提供：アンスティチュ・フランセ日本、マーメイド・フィルム 配給：コピーポア・フィルム

【本件に関するお問合せ】東京国立近代美術館フィルムセンター 広報担当 白鳥

TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

■ 送付先：東京国立近代美術館フィルムセンター 広報担当行 ■

FAX：03-3561-0830 メール：nfc-pr@momat.go.jp

「生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美」

## 広報用画像&読者プレゼント招待券申込書

\*貸出を希望される画像の口にチェックをつけてください。



①ジャン＝ピエール・メルヴィル  
『リスボン特急』の頃  
©1972 STUDIOCANAL



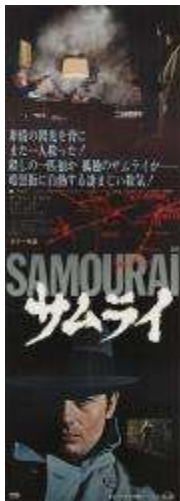
②『恐るべき子供たち』  
オリジナル・ポスター (1950年)



③『賭博師ボブ』  
オリジナル・ポスター (1955年)



④『影の軍隊』  
日本版ポスター (1970年)



⑤『サムライ』日本版ポスター  
(1968年)



⑥『仁義』日本版ポスター  
(1970年)



⑦『いぬ』(1962年)  
撮影中のメルヴィル(右)と  
セルジュ・レジアニ  
©Interpress



⑧『恐るべき子供たち』(1950年)  
ニコル・ステファールとエドゥアール・デルミット  
©Andr   Dino



⑨『海の沈黙』(1949年)  
撮影中のスナップ  
©Gaumont

読者プレゼント招待券

組 名 (合計 枚) 希望します

### プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 原則として部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙(誌)は、1部、広報担当宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。\*画像データ(JPEG)にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。\*掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

画像データ貸出希望日時 | 月 日 時頃までに希望

お名前： \_\_\_\_\_ ご所属・媒体名： \_\_\_\_\_

出版物・放送番組名： \_\_\_\_\_

TEL： \_\_\_\_\_ FAX： \_\_\_\_\_

メールアドレス： \_\_\_\_\_